

SONY



Cloud SDK Deserialize サンプル 機能仕様書

Copyright 2023 Sony Semiconductor Solutions Corporation

Version 0.2.0

2023 - 1 - 30

AITRIOS™、およびそのロゴは、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の登録商標または商標です。

目次

1. 更新履歴	1
2. はじめに	2
3. 用語・略語	3
4. 参照資料	4
5. 想定ユースケース	5
6. 機能概要、アルゴリズム	6
7. 操作性仕様、画面仕様	7
8. 各BlockでのAPIパラメータ	8
9. 目標性能	9
10. 制限事項	10
11. その他特記事項	11
12. 未決定事項	12

1. 更新履歴

Date	What/Why
2022/11/16	初版作成
2023/1/30	表現統一 PDFビルド環境更新

2. はじめに

- 本書は、ユーザーに提供するDeserialize用のサンプルコード機能仕様書である。
環境はPython/TypeScriptを対象とする。
AIモデルはObject Detection/Classificationに対応する。
なお、本環境下においてSerializeおよびDeserializeはFlatBuffersを利用していることとする。

3. 用語・略語

Terms/Abbreviations	Meaning
FlatBuffers	Google製のバイナリシリアル化フォーマット
FBSファイル	FlatBuffers用のデータ構造を定義するファイル

4. 参照資料

- なし

5. 想定ユースケース

- Serializeされた推論結果を復元して利用できる。
 - ユーザーはサンプルを実行することで、既存フォーマットの推論結果をDeserializeし取得できる。
 - ユーザーはサンプルコードとドキュメントを参考にすることで、独自に定義した推論結果フォーマットに対してのDeserialize用コード生成と実行方法を理解できる。

6. 機能概要、アルゴリズム

Functional Overview

- Serializeされた推論結果を復元する。

Algorithm

- FBSファイルを元に生成されたコードを使い、データをDeserializeする。

Under what condition

- Linux環境があること。
 - Deserialize用コードの自動生成を行う場合に必要となる。
 - 開発時はDockerを利用し、Ubuntu 20.04のコンテナ環境にて実施する。
- コードの自動生成時に使用する「FlatBuffers-compiler」のバージョンは1.11.0とする。
- データのSerialize用コードを生成したFBSファイルを所持していること。
 - Deserialize用コードの自動生成を行う場合に必要となる。
 - Serialize時とオブジェクトの定義が共通している必要がある。

API

- なし

Others Exclusive conditions / specifications

- なし

7. 操作性仕様、画面仕様

How to start

- なし

8. 各BlockでのAPIパラメータ

- なし

9. 目標性能

- なし

10. 制限事項

- 利用するDeserializeコードと入力したAIタスク出力結果が一致しているか判別することができない。
（例 Object Detectionの出力結果をClassificationのDeserializeコードに入力してもエラーが起きない。）

11. その他特記事項

- なし

12. 未決定事項

- なし